

小体研

Physical education

2021年（令和3年）

8月10日（火）

◇第2号◇

八重山地区小学校体育研究会広報誌

今年度、石垣市立大浜小学校で八重山地区体育科指導コーディネーターを務めさせていただいている、金城一機（きんじょうかずき）と申します。体育科指導コーディネーターという長〜く難しそうな名前の仕事をしていますが、簡単にいうと体育が大好きで体育しか授業をしない先生です。（笑）「体育を全力で楽しもう」をスローガンに、体育が好きな子はもっと好きに、苦手な子は少しでも楽しい、できた、やった!!を感じる事ができる体育を目指して日々勉強中です。体育授業に熱心な方がとても多い八重山地区で、皆様と一緒に、体育授業について勉強できればと思っていますので、よろしくお願いいたします。

【兼松宏史教諭の授業参観を通して】～R3.6.25 宮良小～

①自己肯定感を高めるための手立て

○教師や仲間からの評価や声かけをするための手立て

跳び箱の周りに1人（正面）、2人（横）の児童が待機し、取り組んだ子に対して「ナイス」「手の着き方が良かった」「腕でもっと押そう」などの声かけの様子が見られた。瞬時にレスポンスがあるので、視覚的に自分を見ることができない体育科においてとても有効であり、自分の技の改善点を知る事ができ、また仲間からの声掛けで「できた」「良くなっているんだ」と自己肯定感を高められる様子が見られた。

○「できるようになった」小さい成功体験を積ませるための学習カードの工夫

児童に配布されたトラブルシューティングのカードに、できた部分にシールを貼らせることで、自分が今どこまでできるようになったのか？前回よりここまでできるようになったなどの少しずつの成功体験の振り返りができた。ある男児が技の写真を見ながら「だいたいここらへんまでできた（台上前転の踏切から頭を丸めるところまではできた）」と自分のできることを嬉しそうに仲間と話しながらシールを張っている姿を見ることができた。前回の自分よりも成長したことを感じることでできる手立て。参考にします。



②トラブルシューティングの活用

○ICT機器の活用と見本を比較しながらのアドバイス

「目線が下がっているね」「着地を意識した方がいいね」などと児童同士で話していた。また、トラブルシューティングの掲示により、主体的に解決法を考える姿が見られ、何よりICTへの児童の慣れにも驚かされた。



③場の設定

○自分にあった練習ができる場のづくり

課題解決しやすくするために練習の場を選択したり、スモールステップの場を用意したりすることが器械運動では有効であるので、自分にあった練習ができる場の確保は、器械運動を苦手としている児童にとって安心して授業に取り組めることにもつながると思う。

○グループをつくり、アドバイスがより具体的に！

回転系のグループと、技巧系のグループなどに分けて練習に取り組ませることで、同じような技や系統で練習しているので、具体的なアドバイスをすることができていた。

○細かい安全確保

各マットの下に、すべりどめシートを置いたり、マットの耳はしっかり入れたりするなどの、見落としとしてしまいそうな安全面確保のための掲示。それをどの子ども当たり前にやっている実態があった。



～参観していた小体研メンバーとの会話の中から～

☆台上前転などで背中を丸めずに回転したり、横にずれたりしてしまう児童が見られたので、マット運動をしてから跳び箱運動をするなどの実施時期について、年間計画の検討が必要な気がした。

☆場の設定の中で跳び箱同士が近く、勢い余って反対側まで行く児童もいたので、もう少し広げてもいいかも。

☆仲間からの声かけで、自己の課題をどう捉えさせるか？捉えさせるための声かけをさせるための手立てが必要かと感じた。アドバイスの質の向上

☆各グループをビブスなどで視覚的に色分けしても、指導する教師としてはわかりやすいかもしれない。

私のおすすめの本

「体育の授業って教科書もないし…難しい」
「体育って難しい」と感じることはないですか？僕はよくあります。

特に器械運動はとっても苦手。そんな中先輩に紹介してもらった本が、とっても分かりやすかったので興味ある方はぜひおすすめします。



「どんなことをしているのか知りたいな」「体育の勉強をしてみたいな」「小体研に参加したいな」と思っている先生方、事務局まで連絡下さい。一緒に八重山の体育を盛り上げていきましょう！！

事務局：大浜小学校 大城良太 82-3948

「体育学習が未来を創る！今、八重山小体研が熱い！」

「がっちりスクラム！やいま体育！」

